

人権擁護委員の紹介

17年1月1日付けで、次の方々が、法務大臣から人権擁護委員に委嘱（再任）されました。

中山精治	54	4353
築城守昌	58	0232
廣澤秀夫	84	2020
前野美保子	84	2124

人権擁護委員は、法務大臣が委嘱した民間のボランティアの方々です。日頃地域に根ざした活動を行い、地域の中で人権思想を広め、人権侵害が起きないように見守り、人権を擁護することが任務です。毎日の生活の中で、これは人権上問題ではと感じたり、困りごとがあるときには気軽にご相談下さい。

対馬市には現在11名の人権擁護委員が活動しています。そのほかの方々には次のとおりです。

長 信一	52	1366
永尾五助	57	0300
平山三智子	52	1251
西山悦子	54	3828
阿比留義教	83	0035
菅野慶全	86	2312
古藤朋子	86	3028

年末の交通安全県民運動

12月21日、上対馬町琴地区で対馬北警察署、対馬北地区交通安全協会、上対馬町交通安全母の会による交通安全キヤンペーンが実施されました。関係者21名でチラシなどをドライバーに配布する街頭啓発を行った後、高齢者宅を訪問して交通安全を呼びかけました。



また22日には、豊玉交通少年団（団員20名）と交通安全協会豊玉支部（梅野和彦会長）、交通安全母の会豊玉支部（平山美笑子会長）の皆さんによって、交通安全を祈願したクリスマスツリーが豊玉警察官駐在所（川上健治巡査部長）に設置されました。

雪だるまの形をした用紙に交通安全の願い事を書いた団員たちは、5メートル以上もあるツリーに無事故を願って飾り付けをしました。

イルミネーションが点灯されると、飾り付けられたツリーはひとときわ輝き、道行く人々に交通安全を呼びかけているようでした。



新春恒例釣り大会

1月23日、上対馬町観光物産協会主催の「2005かみつしま釣り大将」が、島内から66名の参加者を集め行われました。

終日、雨模様でしたが釣りには絶好の日和だったのか、検量所には釣り上げられた大物が次々と持ち込まれ、歓声

があがっていました。

【高校生・一般の部】

クワの部

糸瀬陽一郎（上対馬） 24
30[㍗] 白田裕樹（厳原） 1
475[㍗] 森山繁久（上対馬）
1455[㍗]

大量賞（10匹の重量）

篠田良治（上対馬） 995
00[㍗] 二宮博明（厳原） 91
00[㍗] 藤島哲也（美津島）
7050[㍗]

特別賞（クワ以外の大物魚）

國分祐太郎（上対馬） チヌ
1805[㍗]

【小中学生の部】

クワの部

島居龍太（上対馬） 網代
隆志（上対馬） 御手洗翔（上
対馬）

大量賞（10匹の重量）

竹 本遙介（厳原）



こんな大物がつれました

市長の動き

《1月》

1～3日 年始休暇
4日 仕事始め式
5日 対馬市消防出初式
9日 対馬市成人式
11日 環境省自然環境局長講演会・懇談会



17日 会計実施検査
18～19日 県知事との面談・漁港関係陳情（長崎）

21日 定例記者発表
23～29日 福岡対馬会新年祝賀会（福岡）・へき地保健医療対策検討会・B&G全国市長会議・全国市長会理事評議委員会（東京）
31日 韓国蔚山市蔚州郡庁表敬訪問

蛭川村で小学生交流

1月5日～7日の冬休み期間を利用して、上対馬町内の小学6年生42名が、岐阜県蛭川村を訪問しました。これは、「ひとつばたこ」が縁で平成7年から交流を続けているもので、蛭川村への訪問は今回で8回目となりました。

昨年の7月には蛭川村から小学生が来島して（関連記事は広報つしま9月号）、対馬の夏を楽しみました。

名古屋空港へ到着後、バスでスキー場へ移動、出迎えた蛭川村の小学生たちと再会を喜びあっていました。歓迎会后、子ども達は真っ白なゲレンデでソリ遊びなど対馬ではあまり経験できない冬の遊びを楽しみました。

最終日は蛭川村に移動して交流。特に博物館という石の博物館での宝石探し（ダイヤの原石など）には時間を忘れるほど熱中していました。また、子ども達は以前からお互いに連絡を取り合って友情を深めていたこと、今回一緒に宿泊したこともあり、蛭川村役場前広場での交流会では蛭

川村の父兄が準備してくれた「五平餅」や特産のハムなどおいしそうに頬ばりながらみんな笑顔でパーベキューを楽しみました。

蛭川村は2月13日に中津川市と合併します。10年目を迎えた蛭川村との交流もこれが最後となりましたが、子ども達は、この交流事業が対馬市と中津川市との間で、いつまでも続くことを心から願いながら、楽しく過ごした蛭川村を後にしました。



移動のバスも楽しそう



歓迎会で



宿泊もいっしょで仲良くなりました



そんなに乘っちゃ滑れないよ～



ダイヤはみつかるかな？



それ～雪合戦だ～



真珠入札会

県内の真珠生産額のおよそ4割を占める対馬産真珠の第1回入札会が1月19～21日、対馬真珠養殖漁協（平井善正組合長）で行われ、島内で生産された1級品の真珠386点、112、089匁（おおよそ420kg）が出品されました。

入札会には、東京、神戸、伊勢などから28社、約60人の加工業者が参加。真珠を手に取り自然光に当てて、形や色、光沢などを真剣なまなざしで確かめていました。

今回の入札での取引額は4億4779万円で、昨年の91%の取引となりました。2回目の入札会は2月に開かれます。